

令和4年度（補正予算）

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

事業の実施結果 （概要）

団体名	Ramune Pic（ラムネピック）
事業名	食のオンラインスクールの若者世代が「小さな仕事」で地域と繋がる事業



- ・地域の住民や事業者との関係を構築、コミュニケーションの中から需要を掘り起こし、『小さな仕事』の成約につなげた。
- ・地域の特産品ラベルの企画・デザイン、ペット栄養学講座の講演などHarmo（ハルモ）のスキルと全国ネットワークを活かし、地域のニーズに合わせて若者の活躍機会を創出した。
- ・食のオンラインスクールならではの交流企画『旅する私のまちごはん』を実施。地域内外の若者が「おにぎり」を通じて“まち”を考えるきっかけとなる仕掛け作りにつながった。

主な活動内容

1. 『小さな仕事』を通じた継続的な関わり

- ・地域のお祭りや行事への参画・お手伝いを通じ、地域住民・事業者との関係を構築。その中で生の困り事から『小さな仕事』を発掘した。
- ・小さな仕事 事例①
まち歩きや関係構築のための施策を通じて学んだ地域の歴史を盛り込んだ特産品ラベルの企画・デザイン。
- ・小さな仕事 事例②
地元開催のペットマルシェの企画にて、ペット栄養学を持つメンバーが講演会を実施（実施12月/参加者12名）。

2. 交流企画『旅する私のまちごはん』の開催

- ・全国のHarmoメンバーが主体となり、“おにぎりで地域を表現する”ことをテーマとした交流会を実施。地域内外の10～20代の若者11名が参加し、自分の地域を考えるきっかけとなるとともに地域間の交流の場として活用した。

主な成果

1. 参加者や地域の声

- ・頻繁に地域に足を運んでくれてありがたかった。活動や取組みが少しずつ広がってほしいと思う。
- ・交流イベントがきっかけで小鳩屋に宿泊してみようと思った。食を通じた場づくりがよかった。

2. 地域への影響や関係人口側の変容・文化的充足感

- ・アンケートより「地域を考えるきっかけ」になったと回答あり。
- ・本事業がきっかけで、足助での新しい交流企画「1day café」を検討中。24年5月に実施予定。

3. 事業を通じて得られた気づきや知見

- ・関係人口の創出へ貢献するのみならず、活動を通じて参加者自身の経験・実践の場として有意義な活動となった。



地域事業者と交流/小さな仕事の打ち合わせ



クラフトビールラベルの企画・制作

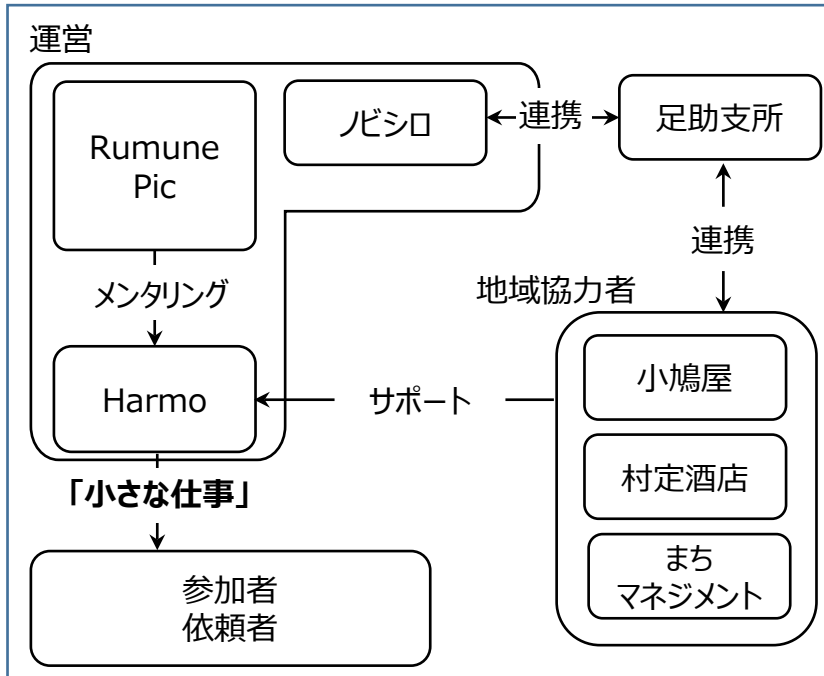


ペット栄養学講演会で講演を実施



交流企画「旅する私のまちごはん」の様子

事業実施体制・関係機関



団体名	役割
Rumune Pic	企画・運営・運営メンバーメンタリング
Harmo	運営
豊田市役所 足助支所	地域住民/事業者との繋ぎ・コーディネート補助
小鳩屋	地域住民/事業者とのコーディネートイベント開催/宿泊場所の提供
村定酒店	地域事業者 他事業者とのコーディネート
一社 まちマネジメント	町案内サポート
ビシロ	運営サポート・メンバーメンタリング 町案内/地域事業者とのコーディネート

食や環境に関する取組状況

- ジビエペットマルシェにてペット栄養学を取得しているメンバーが「ジビエペットフードでペットの食事をワンランクUP」講演会を実施。また、同日ジビエの認知度UPのため、イノシシ肉によるホットサンドの販売も実施。
- 交流イベント「旅する私のまちごはん」を開催。「地域をおにぎりで表現する」ワークショップを通じて、地域内外の若者の交流の場と、地域・町づくりを考えるきっかけとなる仕掛けを提供。



ペット栄養学講演の様子



販売したジビエホットサンド



旅する私のまちごはん イベントの様子



地域をおにぎりで表現するワークショップ

次年度以降の事業展開

【2年目】

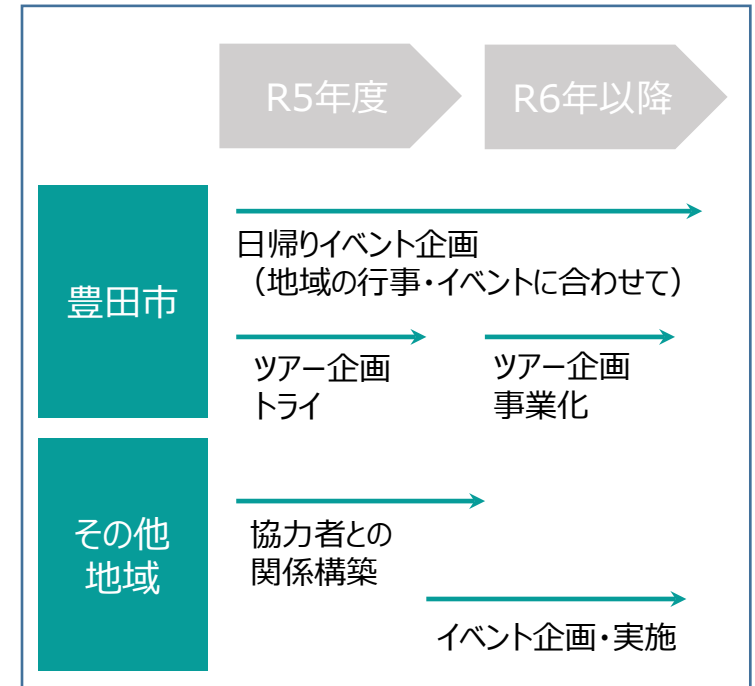
日帰り交流イベントと宿泊を伴う課題解決ツアーによる継続的な関わり

- ・ 事業内で実施した「旅する私のごはん」や過去に他地域で実施経験のある「1Dayカフェ」などの日帰り交流イベントの継続実施。
- ・ 旅行業者と連携し、若者向け課題解決体験ツアー「Harmo流スタディツアー」の企画を3年目以降の事業化に向けてトライとして実施。

【3年目以降】

他地域/他拠点への展開とオンラインネットワークを活かした連携

- ・ Harmo運営メンバーが活動する他拠点へ事業を展開するため、地域コーディネーターなど協力者との関係構築など環境整備を実施。
- ・ オンラインネットワークを活かし、各拠点の活動をオンラインでつなぎ互いに情報交換・刺激し合いながら全国で活動を展開。
- ・ 地域間の交流から新たな関係人口・活躍機会・アイデアの創出につなげる。



	費目	R 6	R 7
支出	交通費 (運営)	135	270
	会場費 (貸切宿泊)	189	378
収入	参加費	300	1200
	小さな仕事 成果物	30	120

単位：千円

自立・自走化にあたっての課題

- ・ 全国の運営メンバーが一堂に会する企画だったため、交通費・宿泊費支出が経費の大半を占める。
⇒近隣のメンバーを運営スタッフの中心とし旅費の抑制を図る。
- ・ 課題・ニーズの発掘に至るまでの地域との関係構築に時間を要する。
⇒未経験スタッフのみにならないような運営側の人員配置の工夫が必要
⇒行政や地域の事業者と連携し、あらかじめ課題をリストアップし、取組事項を絞り込むことで短期のツアーでも実践・成果が出やすい工夫が必要
- ・ 参加者のスキル・特性の把握と、ニーズとのマッチングが必要
⇒事前にオンラインでの面談・コミュニケーションを通じ参加者の把握とそれに基づくチームビルディングが必要